ちた未来塾 第１回　平成 28 年８月４日 18 時～20 時　会場：知多市青少年会館

あいさつ（塾長）

もっと自分らしく生きられるまち、Life　is wonderful へ
まちづくりを若い人にも学んでほしい。但し一方的な学びではなく、近くても遠くても何かをみつけよう。そして、多様な人との出会いと対話からの創発を楽しもう！

ゲストスピーカー　臼井諒さん（日本福祉大学経済学部４年）
「みはまデイズを通して私が伝えたいコト」
(1)自己紹介

生まれ故郷の長野県安曇野市のような豊かな自然が残る美浜に魅力を感じ日本福祉大学へ進学した。もともと映像に関心があり、オンデマンド授業が充実されている同大の取り組みにも興味があった。スタジオが完備された学内は、自分にとっても居心地の良い環境で、映像好きが高じて編集にも興味を持ち、カメラを扱うようになった。今は、学生アシスタントデザイナとして登録し、映像の編集に関する作業を行うアルバイトしている。

（2）みはまデイズとは？

このアルバイト先が美浜町のシティプロモーションコンテンツ制作を受託していた。みはまデイズ（※）の映像制作として撮影と編集に携わっているが、アルバイトを通じた人の出会いや地域のつながりに感謝している。

（※）みはまデイズについて
美浜シティプロモーション・プロジェクトの一環として、美浜暮らしを応援するためのさまざまな制度やご相談窓口、体験移住やコミュニティの紹介もおこない、美浜町の魅力や美浜町ならではの特色を、様々なメディアや手段を用いて丁寧に伝えることで移住者が増やすことを目的にしている。また、町民が企画から取組実施に関わるプロジェクトとして、郷土愛を醸成しながら、町民同士の“つながり”ネットワークの構築を図る。

（3）みはまデイズを作り思ったこと・・・

移住したくなるようなキラキラする美浜の映像は観光者目線が必要で、移住した後の普段の暮らしぶりや住み心地の良さを伝えるためには住民目線が必要だった。また、自然の豊かさだけをアピールするより、例えば安曇野と何が違うかを意識することで美浜プライドを表現できたと思う。暮らしてみないとわからないこと、住んでいるからわからないこともある。そして、美浜の中の古民家生活など実験的な映像を多く撮影したが、

人のつながりがあったからこそインタビューを受けてもらえたし、関わることで地域の人の優しさや温かさにも気づくことができた。

被写体あっての「みはまデイズ」、そして撮影を通して地元の人とつながり、地域とのつながることがいかに大切な事かが分かった。これはただ大学に通うために暮らしているだけでは見えてこなかったことであって、自分の中に気づきが生まれたからこそ取材ができた。まずは興味を持つことから始めて、自分のやりたいコトが見つかり、行動に起こすことがチャンスになる。チャンスが見つかったらお互いに高め合うことができると思う。

(4)みはまデイズで苦労したところ…

前述の通り、みはまデイズは暮らしの視点であって、観光プロモーションビデオではない。観光地よりも暮らしに寄り添い、こんな生活ができるという、美浜ならではのライフスタイルを表現するところが大変だった。

これからもプロモーションは継続されるので、やりっぱなしではなく丁寧に進めていきたい。そして町民同士の“つながり”ネットワークを創って行くための仕掛けとして、自分たちがイベントを主催する予定。

最後は、吉村塾長より

・近くの関心だけではなく、遠くの関心から何かを見つけだそう
・多様な人々との出会い、対話から創発しよう
・みんなで学びあい、自分ごととしてのアクションを生み出そう
・ライフ・イズ・ビューティフルの気持ちで行こう

ふりかえりとまとめ（参加者の感想と意見交換をもとに）

①「わ」「知る」「気づく」→相手があり、自分が、視点があってのこと
②「伝える努力」「伝わる努力」→重なると素敵になる
③「見える化」より「魅せる化」すると見えるのでは？→自分と他者との関係性が重要
④「自分がかかわること」が「地域への愛着」に繋がる
※「シティプロモーション」ではなく、「シヴィックプライド」が重要